

簿記3級仕訳問題 第6回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	普通預金	当座預金	売掛金	受取手形
貸付金	消耗品	前払金	立替金	手形貸付金
買掛金	支払手形	前受金	未払金	借入金
減価償却累計額	預り金	手形借入金	貸倒引出金	売上
仕入	給料	租税公課	消耗品費	受取利息
商品販売益	支払利息	受取配当金	手形売却損	貸倒損失

1. 当期に事務所でまとめて100セット購入したコピー用紙¥10,000を消耗品費として計上していた。本日決算日につき、棚卸しを実施したところちょうど60セットが未使用分として判明した。未使用分を次期に資産として繰り越す為の振替仕訳を行うこととした。
2. 資金繰りが悪化しているため、期首に東京商店より年利率5%、借入期間3ヶ月の条件で¥3,000,000を借り入れ、同額の約束手形を東京商店を受取人として振り出した。なお、利息を差し引いた差額が普通預金口座に振り込まれている。利息の計算は月割で行うこと。当店の会計期間は1月1日より1年間とする。
3. 従業員より、毎月給料の源泉徴収税額として預かっている¥45,000を、取引先銀行の普通預金口座より支払った。
4. 静岡商店は、主力商品である「美人のお茶」3,000セットを滋賀商店に独占販売するにあたって、1セットあたり@100円の手付金が当座預金口座に振り込まれた。
5. 得意先である和歌山商店が倒産し、同店へ前期に販売した売掛金残高¥20,000が貸倒れとなった。なお、前期末に貸倒引当金として¥10,000を設定しているものとする。

簿記 3 級仕訳問題 第 6 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第6回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	消耗品	6,000	消耗品費	6,000
2	普通預金 支払利息	2,962,500 37,500	手形借入金	3,000,000
3	預り金	45,000	普通預金	45,000
4	当座預金	300,000	前受金	300,000
5	貸倒引当金 貸倒損失	10,000 10,000	売掛金	20,000

1. 消耗品は使用分のみ当期の費用として処理する。取得時に資産として計上し、決算時に費用に振り替える処理と、取得時に費用として計上し、決算時に資産に振り替える2パターンの処理があることに留意すること。本問は後者のパターンになる。
2. 通常の商品売買で振り出した約束手形ではなく、資金の融通目的で振り出された約束手形は支払手形ではなく手形借入金勘定を使用する。本問は普通預金口座に振り込まれているのでケアレスミスに注意したい。
3. 従業員から預かった源泉徴収税額を納付する仕訳であることに留意すること。給与を支払った際に源泉徴収税額を預かる仕訳と混同しないようにしたい。
4. 商品の販売前に手付金を受け取っている場合は売上ではなく前受金勘定を使用する。
5. 本問も貸倒れの問題であるが、前期に売り上げた商品の掛代金に対するものなので、同じく前期に設定した貸倒引当金を取り崩す処理をすることとなる。積立不足がある場合には貸倒損失として当期の費用に計上する。